

みなさん、こんにちは。

新聞やテレビでは、小正月(1月14日~15日)に行われる「左義長」(どんど、とんど焼きとも)の話題が伝えられています。正月の門松やしめ飾り、書初めなどを持ち寄って焼き、その残り火で焼いたもちを食べれば、病気になるいと言われていいます。春を思わせるような晴天が続いています。健康に過ごせる一年にしたいですね。

1. 小学3・4年生の見学が始まりました。

1月11日(木)、明石小学校の4年生が学校見学の1番手として「昭和なつかし博覧会」にやってきました。「昭和の道具チェックリスト」を手に2階1階を隈なく見学し、道具を探しながらボランティアさんにもむかしのくらしについて質問していました。一般のお客さん子どもたちの昔の教室再現コーナーでは自分たちで先生と子どもの役になりきって授業を始めていました。

昭和30年代、40年代の学校の子どもの服装や遊びの様子にも驚きの声があがっていました。



チェックリストで道具を探す



一般のお客さんから話が聞ける



教室の黒板で授業を始める子どもたち

1階ロビーでは「その時であります!」おっちゃん(阿部さん)の紙芝居の名調子にこえ、子どもたちの「待ってました!」のかけ声が館内に響き渡ります。昔遊びや道具体験コーナーも盛況です。



紙芝居とクイズ



福笑いがおもしろい



2階の遊び場ではコマ回し

2. ワークショップ「お手玉作り」

1月14日(日)はワークショップ第1弾として「お手玉作り」を実施しました。16名の方が参加され、お気に入りの布を選び、かわいらしいお手玉を二つ作りしました。女性の方に交じって男性の方や大学生のカップル、小学生の男の子、お父さんと小学生の女の子といった参加者で、昔話をしたり教えあったりしながら楽しいひと時を過ごしていました。



男性も真剣に縫っています



お父さんと一緒に



参加者同士、話も弾みます

堀谷真理愛さん(松ヶ丘小4年生)はお父さんと一緒に参加。「裁縫は初めてで、むずかしかったけれど、かわいらしいお手玉ができました」とごきげん。大久保から参加した的場さん(甲南女子大1回生)は「イベントに参加してレポートを書く宿題があるんです。小6の時は裁縫が大好きでしたが、今日は本当に久しぶりで、楽しかった」と話してくれました。最後までがんばった木曾川くん(舞子小5年生)はボランティアさんに囲まれて「上手だねー」と言われ、照れ笑い。

3. 1月20日(土) ガリ版印刷が体験できます(11:00~14:00)

明石市内で今もガリ版印刷を続けている安藤さんと一緒にガリ版印刷をやってみましょう。

口ウ原紙に鉄筆で文字を刻み、印刷していきます。当日申し込みです。